

ブドウ「ピオーネ」における環状剥皮処理時期の検討

主枝部への2cm幅の環状剥皮処理は、満開後30～40日で着色効果が安定して高い

背景・目的

- 黒系ブドウの高温による着色不良は、温暖な本県において大きな問題となっています。
- 着色対策技術である環状剥皮処理について、「ピオーネ」における効果的な処理時期を検討しました。

成果の内容

- 環状剥皮処理は、満開後30～40日の処理で、着色効果が安定して高いですが、果房重は無処理の同等以下になります。満開後45～55日では、着色効果はやや劣りますが、果房重は無処理と同等になります（表1、表2、図1）。

（表1）：環状剥皮処理時期の違いが果皮色に及ぼす影響

	2017（年度）	2018	2019	2020	2021
無処理	5.6b	6.0b	6.8b	6.7b	7.7
30-35日後	—	—	7.8a	8.1a	7.9
40日後	7.0a	7.3a	7.1ab	7.4a	8.4
45日後	6.7b	—	—	—	—
50-55日後	6.6b	6.9a	7.1ab	—	—
有意性 ^z	*	*	*	*	n.s.

注1) n=7～10

注2)：緑(0)～紫黒(12)、果皮色カラーチャート値（農林水産省1975）

z：異なる英数字はSteel-Dwass検定(5%)で有意差のあることを示し、n.s.は有意差なし

（表2）：環状剥皮処理時期の違いが果房重に及ぼす影響

	2017（年度）	2018	2019	2020	2021
無処理	416a	412	399a	448a	423
30-35日後	—	—	332ab	352b	420
40日後	335b	399	325b	394ab	419
45日後	374ab	—	—	—	—
50-55日後	372ab	440	334ab	—	—
有意性 ^z	*	n.s.	*	*	n.s.

注) n=7～10

z：異なる英数字はTukey検定(5%)で有意差のあることを示し、n.s.は有意差なし

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 着色向上による高品質の果房生産が可能となり、所得向上につながります
- 普及対象地域・面積 西諸県、児湯地域の「ピオーネ」栽培農家 33ha

留意点

- 剥皮部位の保護のために接ぎ木テープを巻く必要があります。
- 老木等の樹勢が低下した樹に環状剥皮を行うと、さらに樹勢低下を助長する恐れがあります。

関連研究成果カード：2021年度後期 番号19
研究期間：2017～2021年度

関連事業名：温暖化対応品種の選定と生理障害への対応技術確立(県単)
気候変動の影響評価と適応のための果樹栽培技術の確立(県単)



（図1）：環状剥皮処理を行った「ピオーネ」の収穫果房（2018年）